

「台湾学生との交流を通して発見
映像表現学科2年 上原美波

台湾学生と交流するなかで、コミュニケーションを取るうえで重要な要素に気づいた。台湾の現地調査前に中国語勉強会が開かれた。しかし、実際に中国語で話そうとすると単語が思い出せないことや、なかなか伝わらない場面もあった。言葉で伝えられないとき、ジェスチャーや簡単な英語を用いたが、なかでも重要な要素は表情であった。表情を見ることで、相手の感情を読み取ることができる。そのため話の雰囲気を感じとることができ、コミュニケーションが取りやすくなるのだと分かった。

研究グループは4人と少人数である。そのため、全員が積極的な行動を求められる。分からないことや気になったことは質問し、話し合った。台湾学生と行動をともにすることで、台湾だけでなく、日本の特徴も新たに発見することができた。

台湾での調査を振り返ると、後期プログラムに向けての課題がみえてきた。それは、台湾学生以外の現地の人とのコミュニケーションが少なかったということだ。聞きたいことがあるときや、現地の人から話しかけられても、台湾学生、先生が間に入ってくれていた。そのため、後期プログラムの現地調査では自分から直接現地の人とコミュニケーションを取るようにしたい。

